

平成29年度 十勝農試 定期作況報告 大豆

月	作況	事由
6月20日	平年並	播種期は平年より2日遅い5月22日であった。播種後は高温に経過したため、出芽期は平年より2日早く、出芽率も平年を上回った。その後低温に経過したため、主茎長、主茎節数は平年をやや下回っている。 以上のことから現在の作況は平年並である。
7月20日	やや良	7月上旬以降気温はかなり高めに経過した。開花始は平年より1日遅かったが、主茎長、主茎節数、分枝数はいずれも平年を上回っている。 以上のことから、現在の作況はやや良である。
8月20日	平年並	7月5半旬は気温はやや高めに経過したが、7月6半旬以降低温に経過し、8月の日照時間は平年の半分以下であった。主茎長は平年より11cm長く徒長し、倒伏が発生している。分枝数は平年より多いが、着莢数は平年並である。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
9月20日	良	9月上旬は日照時間が多く経過し、成熟期は平年より2日早かった。主茎長は平年より15cm長く徒長し、倒伏は中～多程度発生している。主茎節数、分枝数は平年より多く、着莢数は平年を大きく上回っている。 以上のことから、現在の作況は良である。
10月20日	良	主茎長、主茎節数、分枝数は平年を上回った。百粒重は平年より軽かったものの、莢数および一莢内粒数が平年より多かったことから、子実重は平年比で111%と大きく上回った。 以上のことから、現在の作況は良である。
11月20日	良	播種期は平年より2日遅かった。播種後は高温に経過したため、出芽期は平年より2日早く、出芽率も平年を上回った。出芽以降は低温に経過し生育は停滞したが、7月上旬以降気温はかなり高めに経過したことから生育は回復し、開花始は平年より1日遅かったが、主茎長、主茎節数、分枝数はいずれも平年を上回った。7月6半旬以降低温に経過し、8月の日照時間は平年の半分以下であったため、主茎は徒長し、倒伏が発生した。9月上旬は日照時間が多く経過し、成熟期は平年より2日早かった。主茎長、主茎節数、分枝数は平年を上回った。百粒重は平年より軽かったものの、莢数および一莢内粒数が平年より多かったことから、子実重は平年比で111%と大きく上回った。検査等級は「1等」で平年を上回った。 以上のことから、本年の作況は良である。

生育データ

品種名		ユキホマレ		
項目/年次	本年	平年	比較	
播種期(月日)	5.22	5.20	2	
出芽期(月日)	5.31	6.2	△2	
出芽率(%)	94.4	91.9	2.5	
開花始(月日)	7.14	7.13	1	
成熟期(月日)	9.20	9.22	△2	
主茎長 (cm)	6月20日	11.5	12.2	△0.7
	7月20日	75.7	64.2	11.5
	8月20日	86.6	74.8	11.8
	9月20日	89.2	74.2	15.0
	成熟期	86.4	73.9	12.5
主茎節数 (節)	6月20日	2.5	3.2	△0.7
	7月20日	11.1	10.6	0.5
	8月20日	11.1	10.9	0.2
	9月20日	11.8	10.8	1.0
	成熟期	11.3	10.8	0.5
分枝数 (本/株)	7月20日	5.2	4.5	0.7
	8月20日	5.9	4.9	1.0
	9月20日	5.4	4.6	0.8
	成熟期	5.6	4.3	1.3
着莢数 (莢/株)	8月20日	76.2	76.8	△0.6
	9月20日	83.3	68.3	15.0
	成熟期	81.9	67.2	14.7
一莢内粒数(粒)	1.87	1.80	0.07	
子実重(kg/10a) ³⁾	421	379	42	
百粒重(g) ³⁾	36.2	39.4	△3.2	
屑粒率(%)	0.3	1.8	△1.5	
品質(検査等級) ⁴⁾	1	2下	-	
子実重対平年比(%)	111	100	11	

備考1) 平年値は、前7か年中、平成26年(豊作年)及び28年(凶作年)を除く5か年平均である。

2) △は、平年と比較して「早」、「少」、「短」、「軽」、「低」を表す。

3) 水分含量15%に換算した値。

4) 農産物検査による等級。2等・3等は上・中・下に分けた。

耕種概要

一区面積(m ²)	区制	前作物	畦幅(cm)	株間(cm)	1株本数	株数(株/10a)	播種日(月日)	種子処理
16.8	3	緑肥えん麦	60	20	2	8,333	5.22	クルーザーMAXX
施肥量(kg/10a)								
N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	堆肥	その他			
1.8	15.0	7.8	3.0	なし	なし			